

関係各位

謹啓 処暑の候、皆様におかれましては益々ご健勝のことお慶び申し上げます。

いわゆる『新型コロナウイルス』の件につきまして、本学園のあります長岡市では感染は抑制されているものの、国内外とも感染拡大期と回復期を交互に繰り返す様な局面にあり引き続き慎重な対応が求められているところであります。

去る8月13日、国立感染症研究所より新型コロナウイルスのクラスター事例集が報道向けに公表されましたが、「日常生活での三密回避と、マスク、手洗いの徹底」を呼びかけるものであります。

世界的感染が発生して以降、関連する論文の公開が飛躍的に増加している中、査読の甘さ、研究データの信憑性を問われる事案も多く指摘される状況下、現時点では、効果的な治療法、ワクチンの開発等には当然一定の時間が必要であり、私たちの生活レベルにおいては、前述の「日常生活での三密回避と、マスク、手洗いの徹底」こそ最善にして対応可能な唯一の策なのではと感じております。

海外での発症確認から、すでに半年以上が経過しましたが、今私たちに求められることは「情報発信・受信を慎重に精査し、『用心』すること」と感じております。

情報の拡大解釈による過度の自粛や制限は時に日常生活を疲弊させるだけでなく、人間同士の争いにつながることもあり、そうならないためにも、個人レベルにおいて『用心＝万が一に備えて注意・警戒を怠らないこと』が重要になると感じます。

幸い、本学園の学生・教職員は、歴史的に『用心のDNA』が備わっていると自負しております。決して過度に委縮することなく、しかしながら用心してことにあたる習慣こそ、先の見えない歩みにささやかながらも、結果的に絶大な効果を発揮すると信じております。

引き続き、全国での発症データを整理し、可能な限り本法人で把握している状況別感染事例・経路を整理し、学生の、園児の、学園関係者各位の安全安心にどのようにつなげるかをまず検討し、いかに緩やかに学びの歩みを止めないためにできることは何かを想定し、優先順位を明確にしていくことが何よりも大事と考えております。

引き続き、様々な試行錯誤を重ねていく所存です。重ねてご理解の程何卒よろしく願いいたします。

謹白

令和二年八月
学校法人北陸学園
理事長 加藤聡介
教職員一同